患者さんの立場で考える | 福井県済生会病院広報誌 |

かけはし

TAKE FREE
ご自由にお持ちください

2025 9
vol.128

かけはしの特集やバックナンバーが見られます！

特集

早期治療で自分らしい生活を取り戻そう
高齢者の骨折治療



Topics

- 予防で笑顔をよぼうっと！
  テーマ：帯状疱疹
- 地域連携医療の絆
- インフォメーション
- ご意見箱
- 笑顔で介護

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部
福井県済生会病院



笑顔で介護

高齢者の健康を守り笑顔で過ごすために、自宅での介護で特に気を付けたいポイントをご紹介します。

今回のテーマ

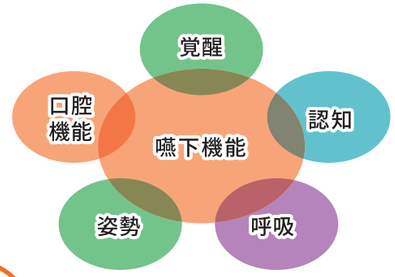


「食べる力」を守ることは、暮らしを守ること。

嚥下（えんげ）機能の低下予防と対応

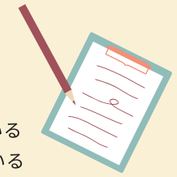
高齢になると「食べる力」が少しずつ弱まり、ムセやすさや噛みにくさが現れます。これを放っておくと、誤嚥や窒息、栄養不足のリスクにも…。そんな時こそ、家庭でできる工夫と早めの気づきが大切です。今回は、噛めない・ムセる・食べづらい…そんな悩みを地域で支えるヒントが満載！今日からできる“お家での介護”を紹介します。

人が食事をするためには、多くの機能が無意識で働いています。どれか１つでも問題があると、食べる（飲み込む）力が低下して、誤嚥や窒息のリスクが高まります。



1分で 簡単チェック！

- □歯が無く、噛んでいないような気がする
- □噛む時に痛そうにしている
- □入れ歯が合っていない
- □むせる時がある
- □食べる姿勢が安定しない
- □食べる時に疲れている
- □食べる時にウトウトしている
- □普段よりも辛そうにしている





むせるようになってきたら？
何でむせるのかを観察してみましょう。

○ 水分でむせるときは？

①～④の順で試してみましょう。①一気飲みをしない、②コップを浅いものに変える、③意識をして飲む、④薄いとろみをつける　などを試してみるとよいでしょう。

○ 食事中の水分摂取だけむせるときは？

食べ物を「まとめる」「のどへ送る」機能が低下している可能性があります。飲み込んだ後に、口の中に食べ物が残り、水分と食べ物の飲み込むタイミングがズレることがむせる原因です。煮物や奴豆腐、茶わん蒸しなど飲み込みやすい食品と交互に摂取したり、お茶など水分を意識して飲むとよいでしょう。



食べる量が減ってきたら？
食事を楽しむためにできる工夫を探してみましょう。

○ 食べにくい食品はないか確認！

魚や葉物野菜はよく噛む必要があり、歯の数が減ると食べにくくなります。

○ 食べやすい食品を取り入れる

煮魚や茶わん蒸し、ハンバーグなどの食べやすい食品を取り入れてみましょう。ドリンクタイプやゼリータイプの補助栄養を取り入れるのも〇です。
間食の制限がない場合には、食事を何度かに分けて摂取するのも1つの方法です。



摂食・嚥下障害看護 認定看護師 北村さん

食べる機能を守るために

- 口の健康：毎日の歯磨き、できれば毎食後が理想。定期的な歯科受診や入れ歯の調節も忘れずに。
- 体力維持：**散歩**や**ラジオ体操**を習慣的に。
- 肺の機能：歌う・笑う・話すで**呼吸力アップ！**
  → 間違って食物などが肺に入っても、出す力があれば肺炎になりにくい

嚥下機能が低下してきたなと思ったら、まずはかかりつけ医やケアマネジャーなど在宅スタッフに相談をしてみましょう!!

理　念
患者さんの立場で考える

行動指針
私たちは、患者さんの立場にたって行動します
私たちは、信頼される医療を提供します
私たちは、チームワークを高め、活力溢れる職場をつくります

かけはし vol.128 2025年9月
［発　行］福井県済生会病院
〒918-8503 福井市和田中町舟橋７番地１
TEL：0776(23)1111（代）
［責任者］天谷 奨　［編　集］SQMセンター

早期治療で自分らしい生活を取り戻そう

高齢者の骨折治療

年齢を重ねると、ほんのわずかな転倒や動作でも骨折や関節の痛みを引き起こしやすくなります。特に太ももの付け根や手首、肩といった部位の骨折や、股関節の深部に起こる障害は、歩く・物を持つ・着替える・トイレに行くなど、日常の何気ない動作を難しくし、自立した生活を続けることを困難にします。その結果、寝たきりや介護が必要になるリスクが高まってしまいます。

当院では、こうした骨折や関節障害に対し、整形外科医をはじめとする多職種がチームで治療にあたる体制を整えています。早期に治療とリハビリを始めることで、機能低下を防ぎ、再び自分らしい生活を取り戻すことが可能です。

当院整形外科が力を入れている3つの骨折治療を医師の声とともにご紹介します。

加齢とともに気を付けたい 3つの骨折



❶ 手首と肩の骨折

転倒時に手をついて発症。
手首は骨粗しょう症の初期サインになることも。

❷ 大腿骨近位部骨折

太ももの付け根の骨折は歩行に影響し、寝たきりのきっかけに。

❸ 軟骨下脆弱性骨折

初期はレントゲンで見えにくく、見逃されやすい。続く痛みに注意。

骨折がもたらす影響

●**身体への影響**：筋力低下、関節拘縮、転倒恐怖からの活動量が減少

●**生活への影響**：入浴や着替え、買い物など自立した生活動作が困難になる

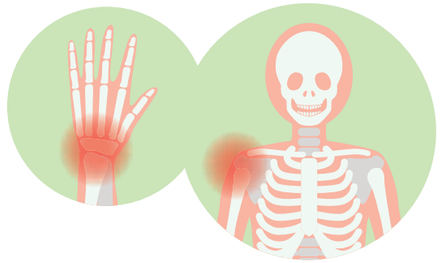
●**精神への影響**：外出機会の減少による気分の落ち込み、孤立を感じやすい

整形外科の予約・お問い合わせ

紹介外来制です。受診ご希望の際は、かかりつけ医もしくは近隣の医院・クリニックからの紹介状をご持参のうえ、ご来院ください。

福井県済生会病院 整形外科（Fブロック）
TEL：0776-23-1111（代）
福井県済生会病院 整形外科（Fブロック）

手首・肩の骨折



転倒して手や肩で体を支えたときに起きやすい骨折です。特に手首の骨折は「骨粗しょう症のお知らせ骨折」と呼ばれ、次の大きな骨折を防ぐための重要なサインです。手首は50〜60代から骨折が増え、肩は60代以降から受傷が増加します。



骨折が増える年代・状況

年齢 50代から60代

状況 転倒時に手をつく



気を付けたいポイント

手首の骨折は骨粗しょう症の初期サインと言われています。放置すると大腿骨や腰椎の骨折へつながることもあるため注意が必要です。肩の骨折は体重を支える動作に影響します。骨折すると上半身の動作だけでなく、杖をつく、つかまり歩行をする、ベットから起き上がるなどの日常的な動きが難しくなってしまいます。

治　療

保存療法（ギプス・装具）

ギプスや専用装具で固定します。肩は三角巾や専用バンドで体幹と併せて固定して安定させることができます。骨のずれが少ない場合に選択される治療法です。

特徴やメリット

・全身状態や持病で手術が難しい高齢者にも適応でき、身体への負担が少ない
・固定期間が長くなるため筋力低下や関節拘縮が起こりやすい
・骨がくっつかない・変形して癒合する可能性がある

手術（ロッキングプレート固定）

手首の骨折では、折れた骨を元の位置に戻し、手のひら側から金属プレートで固定します。肩は骨の外側に金属プレートを当てるか、骨の中に金属の棒を挿入して固定する方法が一般的です。

特徴やメリット

・ギプス固定が不要で、翌日から手首や肩を動かすリハビリが可能。
・関節拘縮や筋力低下を防ぎ、家事や着替えなど日常生活への復帰が早い。
・骨のずれを正確に整復、骨がもろい高齢者の変形癒合のリスクを軽減。

POINT

福井県済生会病院の特徴

● 手の外科医による専門診療

当科には手や肘を専門とする外科医が在籍し、けがや病気による幅広い障害に対応しています。治療だけでなく、その後の機能回復までを視野に入れた診療を行っています。

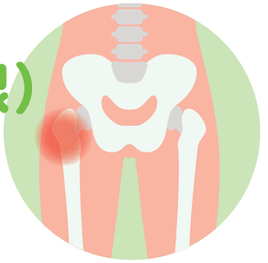
● 手のリハビリ専門チームのサポート

手専門の作業療法士がチームに加わり、医師と連携して訓練を実施。関節の動きを取り戻す訓練やスプリント（装具）の作成を通じて、生活への復帰を支えます。

手のことならおまかせあれ！
手の診療はふたりで行います！



大腿骨近位部骨折（太ももの付け根）



転倒して腰やお尻を強く打ったときに起きやすい骨折です。歩くことができなくなるだけでなく、放置すると寝たきりや合併症につながり、生命予後にも関わります。特に高齢者では骨粗しょう症の影響で骨がもろくなっており、わずかな衝撃でも骨折することがあります。

骨折が増える年代・状況

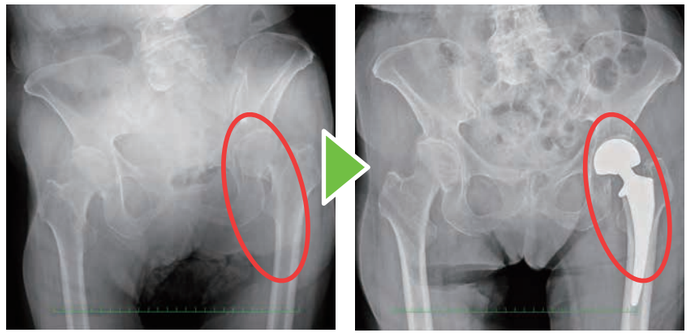
年齢 70代以降

状況 転倒して横向きや後ろ向きに倒れ、腰やお尻から着地（尻もちをつく）



気を付けたいポイント

太ももの骨折は早期治療が鍵。治療が遅れるほど合併症や歩行能力低下のリスクが高まります。骨折後の長期安静は筋力低下や認知機能の低下を招きやすく、寿命にも影響します。



Before　After

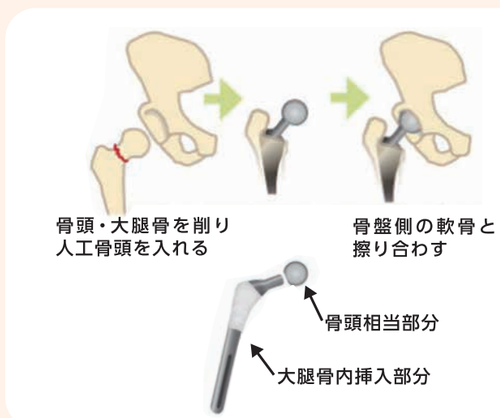
治　療

手術（人工骨頭置換術／髄内釘固定術）

人工骨頭置換術は、損傷した骨頭を人工の骨頭に置き換える方法です。また、髄内釘固定術は骨の中に金属の釘を挿入して固定し、必要に応じて骨セメントで固定力を高めます。

特徴やメリット

・手術後、早期にリハビリを開始できる
・骨粗しょう症の高齢者でも安定した固定が得られる
・関節拘縮や筋力低下を防ぎ、歩行機能を長期的に維持できる。



POINT

福井県済生会病院の特徴

● 迅速な手術と早期歩行

なるべく受傷から48時間以内に手術を行い、術後は翌日から歩行練習を始めることで、寝たきりや合併症の予防に力を入れています。**血液をさらさらにする薬を服用している方でも、麻酔の専門医による管理のもと、薬の効果が切れるのを待たずに手術が可能**です。

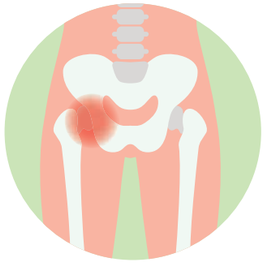
● 地域の病院との密接な医療連携

大腿骨近位部骨折専門の連携体制があり、地域の医療機関や介護サービスと密接に連携し、退院後の生活支援まで一貫してサポートしています。

脚のことならおまかせあれ！



軟骨下脆弱性骨折治療（股関節）



軟骨の下の骨が脆くなって折れたりひびが入ったりする病気です。レントゲンに映りにくいため、痛みがあっても見逃される場合があります。**強く足をつく、段差から降りるといった日常の動作で発症することがあるため**注意が必要です。膝関節でも同様の骨折が見られます。

骨折が増える年代・状況

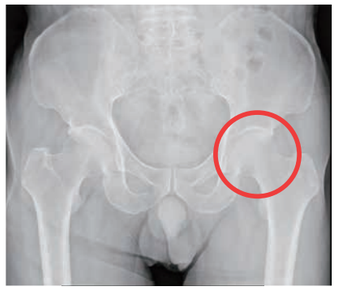
年齢 60代以降

状況 強く足をつく、段差から降りるなどの動作で関節に負担がかかる



気を付けたいポイント

初期はレントゲンで骨の異常が確認できないことがあります。原因が分からず放置すると、骨や関節の損傷が進行し、人工関節が避けられなくなる場合があります。痛みが続くときはＭＲＩ検査を受けましょう。



レントゲン

レントゲン画像では骨の異常が確認できません



MRI

骨の部分が白く濁って映っており、異常が確認できます

治　療

保存療法（骨粗しょう症の薬物治療）

骨粗しょう症の薬物治療（骨吸収抑制薬や骨形成促進薬など）を行い、骨の修復を促します。同時に、松葉杖や歩行器を使って荷重を制限し、患部への負担を減らします。

特徴やメリット

・関節を温存でき、将来的な人工関節置換術を回避できる可能性がある
・全身への負担が少なく、心疾患や呼吸器疾患などを抱える高齢者でも安全に実施可能
・治療期間はおおむね数か月を目安とし、症状や画像検査での回復を確認する

（薬物療法の継続はかかりつけ医へ依頼することもあります）

手術（人工関節置換術）

損傷が進み、関節面の破壊が広がっている場合に行う方法です。股関節の損傷部を切除し、金属やセラミックでできた人工関節に置き換えます。当院では人工関節センターがあり、専門の整形外科医、リハビリスタッフ、看護師によるチーム医療を実施しています。

特徴やメリット

・進行例でも、強い痛みを短期間で軽減し、歩行機能を早期に回復できる
・麻酔や手術中の全身管理を含め、専門チームが高齢者の安全性に配慮

人工関節センターの詳細はこちら▼

POINT

福井県済生会病院の特徴

● 高度画像診断を積極的に活用

レントゲンで見えにくい骨折を見逃さないために、MRIなどの高度画像診断を積極的に活用し、早期診断につなげています。

● 人工関節センターで治療をサポート

関節を温存できる可能性があれば保存療法を優先し、進行例では人工関節センターと連携して手術を実施。高齢者の全身状態や生活背景に合わせて安全かつ最適な治療を提供し、早期の歩行再開と在宅復帰を目指しています。

股関節のことならおまかせあれ！

股関節の診療はふたりで行います！



Let's 予防！ ～帯状疱疹ワクチン接種の 4 つのポイント～

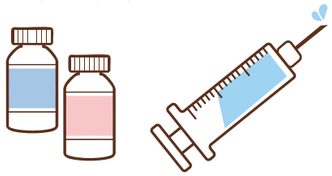
01 国や自治体の助成制度を活用しよう

多くの自治体では 65 歳・70 歳・75 歳などの節目の年齢で案内が届き、接種費用が半額になります。対象外でも 50歳以上なら自費で接種可能。
まずはお住まいの自治体の制度を確認しましょう。



02 自分に合ったワクチンを選ぼう

帯状疱疹ワクチンには2種類あり、持病や免疫の状態、予防効果の持続期間などによって向き不向きがあります。免疫が低下している人にも使えるタイプや、長期間効果が持続するタイプもあるので、医師と相談し自分に合ったワクチンを選びましょう。



03 かかりつけ医で予約して接種しよう

一般内科や皮膚科で接種可能。
インフルエンザワクチンのように、身近な医療機関で受けられるので、案内が届いたらかかりつけ医で接種の予約をしましょう。



04 過去にかかった人も接種できる

過去に水ぼうそうや帯状疱疹にかかった経験がある人でも、再発予防のために接種が有効です。つらい痛みを繰り返さないためにも接種を検討しましょう。



知っトク！ いまや帯状疱疹予防は「高齢期の生活の質を守る対策」

▶2025年4月から予防が国の制度に

これまで帯状疱疹ワクチンは希望者が自費で接種する任意接種でしたが、2025年4月からは国の制度として定期接種に。対象年齢には自治体から案内が届き、自己負担は助成で半額程度に。

▶神経痛はうつの原因になることも

帯状疱疹後神経痛（PHN）は、発疹が治った後も強い痛みが続く後遺症です。
眠れないほどの痛みが長く続くことで気分が落ち込み、うつ状態になることもあります。
ワクチンは発症を防ぐだけでなく、この神経痛のリスクも減らし、症状を軽くする効果があります。

長谷川（はせがわ） 義典（よしのり） 医師



いまこそ帯状疱疹予防で、未来の自分を守りましょう

予防で笑顔をよぼうっと！



テーマ

～帯状疱疹～

ピリピリ・チクチクとした神経痛のような痛みのあとに、赤い発疹や水ぶくれが現れる「帯状疱疹」。50歳を過ぎるころから発症が増え、70代でピークを迎えます。発疹が治っても強い痛みが残り、日常生活に支障をきたすことも。
しかし、こうしたつらい症状は、ワクチンで予防することができます。正しい知識を身につけて、自分や家族を守りましょう。

クイズで確認！ あなたの「予防」、だいじょうぶ？

Q1.

帯状疱疹はなぜ発症するの？

A. 体の外からウイルスに感染するから
B. 体の中に潜んでいたウイルスが再び活動するから

正解：B「体の中に潜んでいたウイルスが再び活動するから」

帯状疱疹は、水ぼうそうの原因ウイルス（VZV）が体内の神経に潜伏していたものが、加齢や疲労、ストレスなどで免疫力が下がったときに再び活動して発症します。

Q2.

帯状疱疹ワクチンの助成が受けられるのは？

A. 自治体から案内が届く人
B. 50歳以上のすべての人



正解：A「自治体から案内が届く人」

多くの自治体では 65 歳・70 歳・75 歳などの節目に対象者へ案内が届き、接種費用が半額になります。対象外でも 50 歳以上なら自費で接種可能です。

Q3.

帯状疱疹ワクチンで防げるのは？

A. 発症だけ
B. 発症と後遺症の神経痛の両方



正解：B「発症と後遺症の神経痛の両方」

ワクチンは発症を予防できるだけでなく、万一発症しても症状や痛みを軽くし、長引く神経痛（帯状疱疹後神経痛）を防ぎます。

帯状疱疹になりやすい人

■ 加齢による免疫力低下
50歳ごろから免疫力が下がり、発症が増え始めます。70代でピークに。

■ 疲労・ストレス
体力や抵抗力が落ちたときにウイルスが再び活動しやすくなります。

■ 持病や治療の影響
がん治療中、免疫抑制薬服用中など、免疫が下がる状態の人は特に注意。

帯状疱疹ワクチンの種類と特徴

種 類	接種回数	効果の持続	予防効果	費 用
生ワクチン	1回	約5年	約4割（5年時点）	約8,000円 → 助成 約4,000円
組み換えワクチン	2回（2か月間隔）	約10年	約9割（5年時点） 約7割（10年時点）	約4万円 → 助成 約2万円

※2025年4月から65歳・70歳・75歳など節目の年齢で助成があり費用が半額になります

敦賀市　病気の予防は健康意識の向上から

川上医院

［ 内科、消化器内科、糖尿病内科、脂質代謝内科 ］

院 長　川上（かわかみ）　巧（たくみ）

内視鏡検査やドックで病気を早期発見 地域の健康寿命を延ばします

2025年4月に院長に就任いたしました。消化器や膵臓・胆道・肝臓疾患の知識と経験を活かし、地域のかかりつけ医として内科を中心に幅広く診療を行っています。内視鏡検査は、経鼻内視鏡や鎮静剤などより負担が少ない方法をお選びいただけますので、不調が続く場合はご相談ください。また、今年から血液検査と超音波検査を組み合わせた肝胆膵ドックを導入。病気の早期発見に努めています。病気を予防するためには、食事内容の見直しや運動の習慣づけなど、日頃から健康への意識を高める姿勢も大切です。検査や健診を通じて、40代・50代の働き盛りの方々をはじめ地域の皆さんが健康寿命を延ばし元気に暮らせるようサポートしていきます。

敦賀市松原町1-39
TEL. 0770-22-0977
［ 診療時間 ］
平日　9:30～12:30 ／ 15:00～18:00
水曜・土曜　9:30～12:30
［ 休 診 日 ］
水曜・土曜午後、日曜、祝日

HPこちらから▶









坂井市　開業30年、連携で守る地域医療

キムクリニック

［ 内科、外科 ］

院 長　金（きむ）　定基（じょんぎ）　副院長　鈴木（すずき）　華恵（ふぁえ）

医療と福祉の網からこぼさぬよう 地域で支える“街の主治医”

当院は開業から約30年にわたり地域に根ざし、外科の院長と腎臓・リウマチ・総合内科専門医である副院長が、外科・内科全般を診療しています。外傷から生活習慣病、日常の不調まで、どんな症状でもまずお話をうかがい、患者さんとの対話を大切にしています。
病気の治療だけでなく予防や健診にも注力。通院が難しい方には、包括支援センターや民生委員と連携して地域の支援につなげ、患者さんが医療と福祉の網の目からこぼれ落ちぬよう支える、地域包括ケアの取り組みを続けています。誰もが安心して暮らせる地域を目指し、これからも歩みを進めてまいります。

坂井市丸岡町一本田 25-23-1
TEL. 0776-67-3000
［ 診療時間 ］
平日　9:00～12:00 ／ 14:00～18:30
木曜・土曜　9:00～12:00
［ 休 診 日 ］
木曜・土曜午後、日曜、祝日





敦賀市　日帰り手術ができるクリニック

わかば眼科クリニック

［ 眼科 ］

院 長　御手洗（みたらい）　慶一（けいいち）

目のトラブルから白内障まで 見えにくさを解消し暮らしを快適に

2024年11月に開院いたしました。眼科専門医として総合病院で難症例や合併症を伴う白内障の治療に長く取り組んできました。その経験を活かし、敦賀でも最新の治療を安心して受けていただきたいと思います。検査や治療機器も取り揃え、白内障をはじめとした各種日帰り手術に対応。結膜炎やドライアイなどの目のトラブルから手術まで幅広くご相談ください。見えにくさは人それぞれで、どんな不便があるのか自身でも気づきにくい場合があります。当院では生活の中での困りごとを丁寧にお聞きし、その方に合った治療法や目指す見え方を一緒に考えていきます。目が見やすくなり日常生活や趣味を楽しめるようになる喜びや生きがいを、多くの方へお届けしてまいります。

敦賀市若葉町3-104
TEL. 0770-37-5133
［ 診療時間 ］
平日　9:00～12:00 ／ 14:00～17:30
土曜　9:00～12:00
［ 休 診 日 ］
土曜午後、日曜、祝日

HPこちらから▶









越前市　チームで支える地域の医療拠点

相木病院

［ 内科、神経内科、皮膚科、
外科、整形外科、小児科、泌尿器科 ］

院 長　相木（あいき）　七良右ヱ門（しちりょうえもん）
副院長　相木（あいき）　孝允（たかよし）

医療・看護・介護のグループ体制で 信頼される病院目指して

当院は、内科を中心に特にご高齢の方の健康を支える診療を行っています。お体の状態だけでなく、家庭環境や本人と家族の気持ちにも配慮しながら、無理のない医療や介護の形を考えることを大切にしています。中でも力を入れているのが、神経内科と連携した認知症への対応です。医療・介護・福祉の充実したグループ体制を強みとし、介護老人保健施設には60床の認知症専門棟を整備、グループホームやデイケア、居宅及び在宅介護支援センター、訪問看護ステーションなど包括的に展開しています。地域柄、外国の方も安心して受診できるよう、翻訳ツールを使った診察も実施。地域に根ざした医療・介護をモットーに、地域の皆さんの健康を支えてまいります。

越前市中央 2-9-40
TEL. 0778-22-1607
［ 診療時間 ］
平日　8:30～12:30 ／ 15:00～19:00
土曜　8:30～12:30 ／ 15:00～18:00
祝日　9:00～12:00
［ 休 診 日 ］
日曜、祝日午後

HPこちらから▶





Announce
ご案内

第15回　済生会生活困窮者問題シンポジウムを開催します

このシンポジウムでは、生きづらさを抱えながら相談先や居場所が見つからない、制度の狭間で支援が受けられていない方々を支援している民間団体の活動や行政の支援施策を紹介し、自ら声を上げることが困難な女性や子どもたちをどのように支援につなげるとよいのか、などについて話し合う場にしたいと考えています。



テーマ　**支援の糸口を、私たちから**
生きづらさを抱える若者を支える福井の力

日時　2025年10月18日（土）　13時～16時

場所　福井県済生会病院　研修講堂

定員　**200名**　どなたでもご参加いただけます。
（当日参加も可）

申込方法　詳細は、病院ホームページをご覧ください。

お問い合わせ　福井県済生会病院　よろず相談外来
〇七七六―二三―一一一一（代）

プログラム

基調講演

生きづらさを抱える若い女性や子どもたちを地域で支えるために私たちができること

（一社）社会的養育地域支援ネットワーク・代表理事　**橋本 達昌** 氏



橋本 達昌 氏 プロフィール
昭和 41(1966) 年福井県武生市 (現・越前市) 出身。これまで全国児童家庭支援センター協議会会長、厚生労働省社会保障審議会社会的養育専門委員会委員など官民の児童福祉、社会福祉関係の要職を務める。近著『社会的養育ソーシャルワークの道標』。

パネルディスカッション

●コーディネーター　（一社）社会的養育地域支援ネットワーク・代表理事　**橋本 達昌** 氏

こども・若者の支援の入り口をひらく 行政の取り組みと課題
福井県健康福祉部児童家庭課長　**藤原 美由紀** 氏

様々な問題を抱える若者を支援する 活動について
（一社）ラシーヌ・代表理事　**端 将一郎** 氏

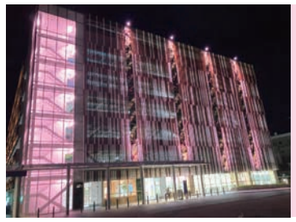
当事者として考える、生きづらさを抱える若者への支援について
ケアリーバー（社会的養護経験者）　**板谷 ゆり** 氏

誰にも言えない苦しみに寄り添う ～性暴力救済センター・ふくい「ひなぎく」の取り組み～
福井県済生会病院　公認心理師・臨床心理士　**車屋 知美**

Announce
ご案内

10月は啓発月間です

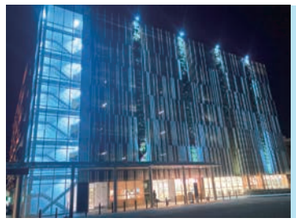
10月は、医療に関する大切な啓発月間であることをご存じですか？
当院では、啓発活動の一環として、立体駐車場のライトアップを行います。
それぞれの色には、健康と命を守るメッセージが込められています。



「ピンクリボン月間」にちなんで乳がんの早期発見・治療の大切さを伝えるピンク色
（10月上旬）



「臓器移植普及推進月間」に合わせて移植医療への理解を深めるグリーン
（10月中旬）



「脳卒中月間」に関連し、予防と早期対応の重要性を伝えるブルー（10月下旬）

ご来院の際は、ぜひライトアップをご覧いただき、医療への関心を深めるきっかけとしていただければ幸いです。

ご意見箱

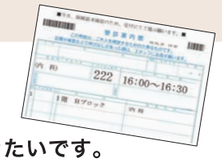
患者さんやご家族、ご来院者からの声にお応えします

より良い医療サービス提供のため、お気づきの点などがございましたら、ぜひご意見箱までお寄せください。

ご意見



会計窓口で「受診案内票」を提示したところ、案内票を返してもらえませんでした。
職員の皆さんに案内票の返却を周知徹底していただきたいです。



貴重なご意見ありがとうございます。

当院では、原則として会計窓口での精算が終わった後は「受診案内票」はお返ししておりません。これは、

〇会計後には案内票を使用する機会がなくなるため
〇患者さんの個人情報を守るため、病院側で責任を持って廃棄しているため　です。

ただし、患者さんからご希望がある場合には、お返ししております。ご希望の際は、会計時に窓口スタッフへお気軽にお申し出ください。
なお、自動精算機をご利用の方には、個人情報を安全に処分できるよう**「個人情報廃棄ボックス」**を設置しておりますので、ご活用ください。
皆さんの大切な情報を守るための取り組みですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

